

春風秋霜

5月号

令和2年5月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新型コロナウイルスによる休校について

新型コロナウイルス感染拡大により、各種学校の休校だけでなく様々な自粛要請が行われています。何よりも濃厚接触状態を避ける努力が求められています。連休に向け、県外からの移動制限や施設の閉鎖など、様々な方法がこれまでにない緊張感を持って行われようとしています。

市内小中学校では可能な方法で子供達への支援を行っていただいていると思います。親の都合でどうしても支援が必要な児童のために、学校を開放していただいている学校も数多くあります。第一小学校では、集まった子供たちに時間割を分け、計画的な学習支援を行っていました。活動場所を分散し、濃厚接触状態を避ける体制もしっかり行っているため、保護者からは感謝の声がたくさん届いていると聞きました。急な対応をお願いいたしましたが、支援員の配置移動や教員の支援に協力いただきありがとうございます。

今後については、5月20日（水）までの休校延長が決定しました。国や県の動向及び感染状況によっては、再度の延長も必要となりますが、ご理解をお願いいたします。これまでの授業時間数のカットを鑑み、学習の保証をどうするかが大きな課題になっています。学校によっては、適切な課題を用意したり、eライブラリ等の活用をしたりする取り組みが進んでいます。休校中の学習を工夫する学校が増えていることに感謝しています。

島田市教育委員会では、休校延長に伴う授業時間数の確保のため、8月7日まで授業を行いたいと考えています。延長した授業日の給食を確保するため、予定されていた南部給食センターの工事は延期します。市教育委員会は、子供たちの安全を優先するとともに、学習保障も大切にしなければならぬと考えています。難しい局面になっていますが、教職員の皆様のご理解をお願いいたします。

2 学校ホームページ（HP）の工夫を

休校中は学校と子供たちのつながりが不足しますが、HPを活用した学校の様子を発信する取り組みが始まっていると聞きました。川根中学校では、教職員によるワックスがけの様子をHPにアップし、生徒の登校を待っていると伝えています。

担任の顔写真や子供達へのメッセージを載せたり、教室の様子や校内の様子（花壇や校庭の木々の様子）などを載せたりすることもできます。六合小学校では、ニガウリの種を子供たちに配布し、栽培や観察を宿題にしています。担任が同じものを栽培し、その様子をアップすることも考えられます。様々な工夫によって、子供たちと学校をつなぐ努力をお願いします。

子供たちの中には家庭状況が心配される子供もいます。定期的な電話連絡やメール配信システムの活用はこれまでも行っていると思いますが、今後もこれまでと同様にお願いします。学校再開にむけ、子供たちが学校に期待感や所属感が持てることを願っています。

3 教職員の勤務について

コロナウイルスの流行に伴い、三密防止をはじめとしたさまざまな取り組みが行われています。学校においても、職員室内の勤務を最少にし、各教室に分かれて仕事を行っている学校は多いと聞いています。食事を対面で行わないようにするなど、個人的な対応をしている教職員も多いと思います。

学校教育課からの連絡により承知していると思いますが、感染時に重症化する恐れのある家族がいる職員や妊娠中の職員については、在宅勤務を積極的に活用してほしいと思います。また、体調不良時の勤務自粛や行動歴の記録なども、自分を守る、仲間や家族を守るために大切にしてほしいと思います。

4 教育課程等の再検討について

5月20日（水）まで休校が延長され、年間授業時間数の確保が厳しくなっています。文部科学省からは「不測の事態により該当授業時間数を下回ったことのみをもって、学校教育法施行規則に反するとされるものではない」という通知（昨年3月）が出されているものの、学校としては授業時間の確保及び指導内容の見直しによる、未履修防止が必要になっています。

そこで、国語を例にすれば、類似教材を連動して指導したり、軽重をつけて指導したりすることによって、指導時間数を削減することを考えなくてはなりません。例年通りの時間数で授業を行っている場合は、未履修の教材が増えてしまいます。

各学校がすべての教科を再編成するには労力が大きすぎます。また、学校規模により教科の教員数に偏りがあるので、学校間の協力や連携が必要になります。検討をお願いいたします。

肘かけ椅子

小林 知子 社会教育課長

今年度から社会教育課に配属となり、自分に務まるのだろうかという大きな不安と、少しでも社会教育の推進に寄与できたらというわずかな希望を抱きつつ、4月がスタートしました。

新型コロナウイルス感染症の猛威が押し寄せる中、4月初旬までは「密閉・密集・密接」の3つの密を避けた上で事業を実施しようという段階でしたが、小中学校の休校延長、全国緊急事態宣言・・・と警戒レベルが上がるにつれ、できる事業は限られてきて、ついには市民参加の会議すら開けないような状況となってしまいました。社会教育課の実施している事業は、公民館講座・教室、家庭教育学級、文化事業など、市民同士が集まってコミュニケーションをとりながら学びあうものがほとんどであるため、どうしても「密」が避けられないような事業ばかり。市民の生活すら危ういこの状況下では、「不要不急」である社会教育事業は一時休止せざるを得ないというのが現状です。

「密」を避けてできることはないかと考えたときに、やはり思いつくのはデジタルの分野です。当課でも、市のホームページ上にウェブ版の家庭教育学級通信を開設したり、ウェブ会議を計画したり、少しでも事業を継続させる方法を模索中です。学習成果のウェブ発表会なども、実現すればおもしろいのではないかと思います。まだまだ色々な可能性があると思いますので、これからも研究していきたいと考えています。